

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25284133

研究課題名(和文)中国古代の軍事と民族 - 多民族社会の軍事統治 -

研究課題名(英文) Military Control of a Multi-ethnic Society in Early China

研究代表者

宮宅 潔 (MIYAKE, Kiyoshi)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：80333219

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はまず(1)中国古代史における民族の問題 - 「漢民族」はいかにして形成されたのか、中国王朝はさまざまな帰属意識を持つ人間集団をいかにして統合したのか、新たな民族集団の流入が王朝にいかなる影響を与えたのか、など - について共同研究者間で討議したうえで、それら民族問題と軍事の相関関係について各自の研究課題を設定し、定期的に研究発表を行った。その過程で(2)中間年度に韓国・ソウル大学で国際シンポジウムを共催した。そこでの討議をふまえてさらに議論を重ね、(3)参加者全員の寄稿を得て成果報告書『多民族社会の軍事統治 出土史料が語る中国古代』を京都大学学術出版会から刊行するに至った。

研究成果の概要(英文)：This project started with examining several topics on "ethnicity" in early China, that is, the ways to integrate the human groups with various types of identities, the influence on the dynasties by the invasion of new ethnic groups, and so on. On this basis, We conducted an international conference in the third year, published a booklet of the conference papers. After the discussion in this conference and other smaller workshops, the final research report of this project, Military Control of a Multi-ethnic Society in Early China, was published.

研究分野：中国古代史

キーワード：中国古代 軍事史 民族 辺境統治

1. 研究開始当初の背景

代表者は平成 20～24 年度に、「中国古代軍事制度の総合的研究」(課題番号:20320109)という研究プロジェクトを実施した。このプロジェクトでは、日本・中国・韓国、そして欧米における中国軍事史研究の現状を分析し、従来の研究成果・研究手法に含まれる問題点・偏向性を意識しながら、そのうえで軍事制度研究の新たな地平を模索することが目指された。その成果を土台としつつ、新しい視点を取り込んで始められたのが本課題研究である。新たな立脚点に据えられたのは、軍事と民族問題の相関関係であり、その目指すところはいわば「軍事問題としての民族」であり、「民族問題としての軍事」であった。

2. 研究の目的

従来の中国古代史研究、とりわけ戦国・秦漢史研究では、地域間の文化的差異には一定の注意が払われつつも、各地の住民はいずれも「漢民族」であり、その間に「民族」的な相違はないと見なされてきた。異なる民族集団同士の対立が鮮明となり、軍事と民族の問題への関心が高い魏晋時代史研究に比べて、秦漢史研究者がこの問題を等閑視してきた一因は、実にこの点にある。

だが秦漢時代の状況が魏晋時代のそれと本質的に異なるわけではない。戦争や紛争を契機にしてさまざまなルーツを持つ者たちが混交し、その勝敗により特定の帰属意識を強めることもあれば、他の集団に吸収されて自らのアイデンティティを失うこともあった。そうした社会を支配する上で軍事力が重要な役割を果たしたことは言を俟たないが、一方で軍事力の編成方法や戦略の指針は、多様な社会のありようによって規定されるものであった。このような「軍事と民族の相関関係」を、秦漢時代から隋唐時代までに時間軸をすえて分析するのが、本プロジェクトの目指したところである。

3. 研究の方法

研究組織は、宮宅を研究代表者として、国内から 3 名の研究分担者、2 名の連携研究者、さらに中・韓・独から 3 名の海外共同研究者が参加する。そのうえで以下の 4 つの研究領域について、分担して研究を行う。

- (1) 中華の拡大局面における軍事と民族
- (2) 古代帝国の異民族支配
- (3) 多民族社会と軍事イデオロギー
- (4) 中華の分裂局面における軍事と民族

研究遂行に当たっては、2 つの作業を平行して進める。1 つは新出文字史料の読解・分析で、秦漢時代史を専門とする内外のメンバーが参加する。もう 1 つは個々の研究課題を討議する研究会・国際シンポジウムで、これには全メンバーが参加する。特に中間年度と最終年度に国際シンポジウムを開き、研究成果の発信を図り、あわせて外部からの評価を得ることとする。

訳注の発表や個々の論文発表とともに、最終的な研究成果として研究報告書『軍事と民族 - 中国古代における多民族社会の軍事統治 -』の出版をめざす。

4. 研究成果

(1) 新出史料の読解と訳注作成

研究期間中、秦漢史を専攻する共同研究者が中心となって、新出史料の会読を定期的に行った。当初は『里耶秦簡〔壹〕』の会読を進め、秦帝国による新占領地支配の実像について分析を行った。この作業のなかで得られた知見が、最終報告書に収められたいくつかの論文のなかにも取り込まれている。それとは別に、各文書の解釈や簡の接続関係など、細かい問題を論じた研究ノートを中国語で作成し、武漢大学簡帛網に随時発表した。その後、『岳麓書院藏秦簡〔肆〕』の会読にも着手し、その一部の訳注を『東方学報』誌上に発表した。

(2) 国際シンポジウムの開催

研究期間の中間年度に、韓国・ソウル大学において国際シンポジウム「多民族社会の軍事統治」を開催した。ソウル大学・東洋史学科との共催である。会議には共同研究者が発表者・コメンテーターとして参加したほか、孫聞博(中国人民大学)・李基天(ソウル大学)の二名も研究発表を行い、またコメンテーターとして韓国の研究者たち(尹在碩(慶北大学)・金珍佑(高麗大学)・金慶浩(成均館大学)・林炳徳(忠北大学)・趙晟佑(ソウル大学)・崔宰栄(翰林大学))が加わった。

中国漢王朝の時代、朝鮮半島北部は漢の支配下に置かれたので、中国王朝の軍事的侵略と統治の問題は、韓国古代史の研究者も強い関心をよせるテーマである。中国史研究の立場から、その辺境統治の実像を検討することにより、韓国人研究者を中心にして行われている古朝鮮史研究に対して、一石を投じることができたものと自負している。

(3) 成果報告書の刊行

すべての共同研究者から、1～2本の寄稿を得て、本研究の最終成果として標記の報告書を発行し、関係する国内外の研究者、及び図書館・研究機関に広く配布した。その内容は以下のとおり

- ・研究動向篇
中国古代軍事史研究の現状(宮宅 潔)
「闘争集団」と「普遍的軍事秩序」のあいだ - 親衛軍研究の可能性 - (丸橋充拓)
- ・論考篇
征服から占領統治へ 里耶秦簡に見える穀物支給と駐屯軍(宮宅潔)
秦遷陵県の「庫」に関する初歩的考察(陳偉)
漢帝国辺境軍隊の社会構造(エノ・ギレ)
漢代辺境警備体制の変容(鷹取祐司)

秦漢「内史 - 諸郡」武官変遷考 軍事体制より日常行政体制への転換を背景として (孫聞博)

漢代における周辺民族と軍事 とくに属国都尉と異民族統御官を中心に (佐藤達郎)

漢帝国の辺境支配と部都尉 (金乗駿)
前秦政権における「民族」と軍事 (藤井律之)

北魏道武帝の「部族解散」と高車部族に対する羈縻支配 (佐川英治)

唐前半期における羈縻州・蕃兵・軍制に関する覚書 (森部豊)

唐代高句麗・百濟系蕃將の待遇及び生存戦略 (李基天)

以上の論考の問題関心は、(ア) 占領支配の諸相と、(イ) 軍事制度よりみた古代帝国の構造、の二点に大別できる。諸論考がこの二点とどのように関わるのか、簡単に紹介しておく。

(ア) 占領支配の諸相

帝国が新たな領土を獲得した時、異なる帰属意識を持つ人間集団が、そこにどのようなかたちで居住しており、占領者はそれにいかなる態度で臨んだのかを分析する。秦漢時代の占領支配について分析の材料となったのは二つの新出史料群、すなわち里耶秦簡と肩水金關漢簡で、前者からは秦による南方占領地の、後者からは漢の西北辺境地帯での統治のあり様を見て取ることができる。

秦が里耶地域を占領した時、そこには土着民、戦国楚の時期の移民など、さまざまなルーツを持つ人間が暮らしており、占領後にも人口の流入続く。秦は辺境の小県に見合わぬ規模の官吏・兵士・刑徒をここに送りこみ、拠点の維持を試みるが、その支配に服したのは居民のごく一部であった。陳論文は、この地での武器管理を仔細に検討し、当地には一時大量の兵器が保管されていたものの、やがて中央に回収され、現地での武器生産は行われていなかったことなどを述べる。また宮宅論文は里耶地域の官吏や兵士を支えるための兵站制度を分析し、自弁を原則とする方法からの脱皮が進んでいなかったことを指摘する。

一方、肩水金關簡を用いて、前漢武帝期以降の西北防備軍を分析したのがギール・鷹取論文である。また金・佐藤論文も、分析対象を必ずしも西北辺境のみに限定しないものの、王朝が占領地の、あるいはその周辺に暮らす異民族といかに対峙したのかを問題とするなかで、この史料群を活用している。

ギール・鷹取論文はいずれも、西北辺境の防備軍に勤務する者の多くが遙か遠方の中国東部から来たことに着目している。この現象自体はかねてより知られていたが、鷹取論文は木簡が出土した各区画の年代を出土木簡の紀年から推定し、そのうえで兵士の出身地が分かる史料を時代別に整理し、東方出身の戍卒がやがて地元出身者に切り替えられ

ること、同時に服役期間が長期化する傾向にあること等を指摘する。これは、戍卒制度についての従来の理解をくつがえす重要な提言である。その視線の先には、後漢時代における普遍的な徴兵制度の廃止や、異民族兵の積極的な活用へと繋がる道筋が見えてこよう。とはいえ、辺境出土簡の年代比定や、その統計学的分析にさまざまな注意点があることは、ギール論文が述べるとおりである。鷹取論文が示した仮説は、ギール論文が列举する方法論上の課題を念頭において、さらに検証・吟味される必要がある。

漢代からさらに時代が降ると、占領支配の主体はむしろ異民族の側となる。また占領統治の目指すところも、被支配民を管理・制御することから、むしろ活用することにその主眼を移していく。前秦政権が、自らの出身母体である氏の部衆を活用する軍事体制から脱却し、一般編戸の動員に重点を移していったことを指摘する藤井論文や、北魏の部落解散において、高車部族だけが特に「別に部落を為す」ことを認められた背景とその意義を解明する佐川論文、さらには唐代の營州に焦点をすえ、遠征軍への蕃兵動員の具体相を探る森部論文が、こうした問題を取り扱うものである。

(イ) 軍事制度よりみた古代帝国の構造

さまざまな民族から構成される古代帝国、さらには東アジア世界全体の構造を、軍事制度や軍政組織に注目して分析しようとする研究。たとえば孫論文は、秦から漢初にかけての時代には中央と地方の軍事組織の間に大きな違いがなかったものの、次第に辺郡以外の地方軍事組織が縮小されていることに着目し、そこに「日常行政体制」への移行の動きを見て取る。また丸橋論文は親衛軍の多民族性を分析することにより、国家秩序の特性や、戦闘集団内の秩序をより普遍的な秩序へと切り替えていく道筋を読み解こうとする。そこでは、多様な民族を内包する社会に中国王朝の占領支配が与えた影響よりも、むしろ社会の多民族性が王朝支配のあり方に与えた影響の方が検討の俎上に載せられる。

これに対し、佐藤・金論文は辺境の軍政組織に焦点をすえ、多民族の混交する地域を王朝が如何にして統治したのかを分析し、その背景にある辺境社会の様相に迫ろうとする。佐藤論文は漢代の北部・西北辺境の、異民族を統制する組織に注目し、その柔軟性を指摘するとともに、漢王朝との結びつきが諸族における部族再編や族長の権限強化をもたらしたことを主張する。金論文は西南夷や朝鮮半島北部をも視野に収めつつ、分析の対象とする組織は部都尉に限定し、それがあくまで軍政組織であり、異民族を管理する行政機関ではなかったことを強調する。部都尉は帝国全土に置かれた統治機構の一部であり、異民族統治のために置かれたわけではないとし、あくまで郡県制の原則を重視する金論文と、各地の実情に応じた柔軟な制度運用を想定

する佐藤論文との間には、いささか立場を異にする部分もある。今後いっそう議論を深める必要がある。

また両論文では周辺異民族相互の関係も検討の視野に収められる。こうした視点は佐川論文の、既存の社会組織は残しつつも皇帝の直接支配に服した他部族と異なり、高車部族だけが例外的に「附国」として自立性を保持できていたとし、その背景に北魏の柔然に対する戦略を認める指摘や、投降した蛮将への処遇を遊牧系と百濟・高麗系とで比較する李論文とも共通するものである。

本書は刊行されたばかりであるが、すでにいくつかの学会誌から書評用献本の依頼を受けている。今後さまざまなかたちで評価をうけ、中国史研究の進展に寄与できるものと確信している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計14件)

- 1.宮宅 潔「關於里耶秦簡 755-759 簡與1564 簡的編聯」武漢大学簡帛研究中心 簡帛網、査読有、2018
- 2.佐川英治「北魏末の北辺社会与六鎮之乱以楊鈞墓誌和韓買墓誌為線索」武漢大学中国三至九世紀研究所編『魏晉南北朝隋唐史資料』(上海古籍出版社) 査読有、2017、88-107
- 3.宮宅 潔「岳麓書院所藏簡「亡律」解題」東方学報京都 92、査読有、2017、229-252
- 4.佐藤達郎「保塞蛮夷小考」関西学院史学 44、査読無、2017、29-47
- 5.宮宅 潔「秦代遷陵県志初稿 里耶秦簡より見た秦の占領支配と駐屯軍」東洋史研究 75-1、査読有、2016、1-32
- 6.宮宅 潔「里耶秦簡“訊敬”簡冊識小」武漢大学簡帛研究中心 簡帛網、査読有、2016
- 7.鷹取祐司「漢代における『守』と『行某事』」日本秦漢史研究 17、査読有、2016、54-90
- 8.丸橋充拓「唐代後半の北辺経済再考」アジア史学論集 10、査読無、2016、43-61
- 9.宮宅 潔「秦國戦役史與遠征軍的構成」簡帛 11、査読有、2015、153-170
- 10.佐川英治「北魏六鎮史研究」中国中古史研究 中国中古史青年学者聯宜会会刊 5、査読無、2015、55-128
- 11.佐藤達郎「『続漢書』百官志と晋官品令」関西学院史学 42、査読無、2015、1-19
- 12.丸橋充拓「唐代における戦争の記録と記憶 - 露布・史書・紀功碑・軍楽 -」社会文化論集(島根大学法文学部紀要社会文化学科編) 11、査読無、2015、65-81
- 13.佐藤達郎「魏晉南朝の司法における情理の語について」関西学院史学 41、査読無、2014、65-81
- 14.丸橋充拓「中国古代の戦争と出征儀礼 - 『礼記』王制と『大唐開元礼』のあいだ -」東洋史研究 72-3、査読有、2013、32-58

[学会発表](計15件)

- 1.宮宅 潔「出稟與出貸 里耶秦簡所見戍卒的糧食發放制度」中国簡帛学国際論壇 2017、中国・武漢大学簡帛研究中心、2017
- 2.鷹取祐司「從簡牘資料看漢代的上書」中国社会科学論壇(史学)第六届中国古文書学国際研討會、中国社会科学院当代中国研究所(中国北京市) 2017
- 3.鷹取祐司「秦漢時代の庶人再考 对椎名説批判」中国簡帛学国際論壇 2017、中国・武漢大学簡帛研究中心、2017
- 4.藤井律之「北魏における射の諸相」六朝学会第34回例会、京都外国語大学、2017
- 5.鷹取祐司「漢代の人・物の移動と傳・致」「東亜地域社会的情報交流與流通」国際学术大会、韓国・忠北大学、2016
- 6.佐川英治「北魏末期北辺社会与六鎮之乱以楊鈞墓誌与韓買墓誌為線索」秦漢魏晉南北朝史国際學術研討會、中国・襄陽南湖賓館、2016
- 7.佐川英治「北朝出土墓誌と六鎮の乱研究」中国中古世史学会、ソウル(大韓民国) 2015
- 8.鷹取祐司「秦漢時代における官吏の兼任・代行」日本秦漢史学会 2015 年度(第27回)大会、早稲田大学(東京都) 2015
- 9.宮宅 潔「秦の占領支配と軍事組織」Military Control on Multi-ethnic Society in Early China、ソウル(大韓民国) 2015
- 10.佐川英治「北魏の六鎮と草原社会の羈縻支配」Military Control on Multi-ethnic Society in Early China、ソウル(大韓民国) 2015
- 11.藤井律之「前秦政権における「民族」と軍事」Military Control on Multi-ethnic Society in Early China、ソウル(大韓民国) 2015
- 12.MIYAKE Kiyoshi, Literacy and Oral Communication in Early China, Literacy in Antiquity and Medieval Ages: What Inscriptions and Manuscript Can Tell Us, ハイデルベルク(ドイツ連邦共和国) 2015
- 13.MIYAKE Kiyoshi, The various strata of the Ernian luling manuscript and the distribution of the legal code to local offices in Han times, European Association for the Study of Chinese Manuscripts, ドイツ・ハイデルベルク、2014
- 14.佐川英治「中日比較文化研究」2014 年国家外専項目・学术專題系列講座、中国・成都(西南民族大学) 2014
- 15.MIYAKE Kiyoshi, "Dashing forward without helmets"? : The Qin Expeditionary Force and its Constitution, International Forum for the Study of Chinese Excavated Texts, Chicago, USA, 2014

[図書](計4件)

- 1.宮宅 潔(編著) 多民族社会の軍事統治出土史料が語る中国古代、京都大学学术出版会、2018、396頁
- 2.南川高志・宮寄麻子・藤井崇・宮宅潔、歴史の転換期 第一巻、山川出版社、2018、280頁。

- 3.南川高志・加納修・佐川英治・南雲泰輔・藤井律之、歴史の転換期 第二巻、山川出版社、2018、296 頁
4.鷹取祐司、古代中世東アジアの関所と交通制度、汲古書院、2017、335 頁

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

宮宅 潔 (MIYAKE KIYOSHI)
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：8 0 3 3 3 2 1 9

(2)研究分担者

佐川 英治 (SAGAWA EIJI)
東京大学・人文社会系研究科・准教授
研究者番号：0 0 3 4 3 2 8 6

佐藤 達郎 (SATO TATSURO)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：3 0 3 4 0 6 2 3

丸橋 充拓 (MARUHASHI MITSUHITO)
島根大学・法文学部・教授
研究者番号：1 0 3 2 5 0 2 9

(3)連携研究者

鷹取祐司 (TAKATORI YUJI)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：6 0 4 3 4 7 0 0

藤井律之 (FUJII NORIYUKI)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：5 0 3 3 5 2 3 8

(4)研究協力者

陳 偉 (CHEN WEI)
中国・武漢大学・歴史学院・教授

金 秉駿 (KIM BYUNG-JOON)
韓国・ソウル国立大学・東洋史学科・教授

エノ=ギーレ (ENNO GIELE)
ドイツ・ハイデルベルク大学・中国学研究所・教授